

関連項目：教育活動プラン④

人とつながる喜びを味わう異学年活動

目的

本校の児童は、幼い頃から人間関係が固定化され、多様な他者と交わり意見を交流する機会が少ないせいか、自分のよさを自分で感じ、互いに向上しようとする気持ちがやや弱い面がみられます。そこで、子どもたちの自己有用感を味わう活動を推進し、たてわり班を中心とした全校活動に取り組んでいます。

内容

● 互いのよさを認め合うたてわり班活動

本校は少人数の学級のため、人間関係が固定化されがちです。そこで、たてわり班活動を積極的に取り入れ、互いのよさを認め合い、高め合う機会を増やしています。1年生から6年生までが班を構成し活動するので、高学年は下学年を思いやり、友だちに対してなにかま意識ややさしい気持ちで接することができるようになって考えています。また、児童総会や集会活動でもたてわり班での話し合いを取り入れ、自他の考えを調整する力を育成していきます。

● 寄り添い支援する

教職員は、友だちとのかかわりを大切にしようとする子どもたちの集団意識をよりよい方向に導いていきます。子どもたちが活動に主体的に取り組めるよう、やる気に寄り添い支援をします。活動に価値付けをしたり、見通しを持たせたりしながら、よりよい考え方や行動が進んでできる子ども集団を育てています。また、「指導すること」と「子どもに任せるべきこと」を明確にして、全教職員がそれぞれの役割に応じて適切にかかわることをめざしています。

● リーダーとしての自覚や責任が育つ

異学年での活動は人間関係をはぐくみ、6年生にリーダーとしての自覚や責任を育て、下級生には上級生へのあこがれや感謝の気持ちが育まれます。たてわり清掃や週1回の全校遊びの企画・運営に加え、年1回のたてわり遠足では、子どもたちが行き先や活動プログラム等を話し合っています。たてわり清掃で上級生に教えてもらった清掃の仕方が、毎日行っている清掃に活かされています。



校内清掃
「たてわり班清掃」



運動会
「たてわり班対抗リレー」



全校宿泊学習
「東っ子キャンプに向けて」



ふれあい集会
「人文字を作ろう」

成果

たてわり班で相談することにより、違う立場の考えを取り入れるとともに、意見を集約することで「自分たちで考えたこと」という意識が芽生え、自己有用感が高まりました。また、活動に目的意識をもち、他の学年のことも意識しながら活動できるようになってきました。達成感や責任感を持つ子どもがふえ、集団として安定に向かっていきます。課題として、たてわり班の中で活動参加への意識の差やマンネリ化があり、今後、子どもの内面に響く内容、場づくりとしてたてわり班活動を進める必要があります。